

第7章 仕事

● Emerging adults にとっての仕事とは

18-29歳の79%が「たくさん稼ぐことよりも仕事を楽しめることが大切」であり、86%が「世の中に貢献する仕事を持つことが重要」であると考えている。

- ✓ Adolescents と emerging adults の働き方・仕事に対する考え方の違い
 - …Adolescents：米の約8割超の高校生は卒業までにアルバイトを経験するが、その多くは一時の娯楽のためであり、将来の仕事とは繋がっていない。
 - …Emerging adults：稼ぐことだけでなく、成人期を支える柱の一つとして人生の主要を占めるようになる。
- ✓ Emerging adulthood の延長による仕事への態度の変化：50年前と現代
 - …50年前：多くが20代前半に結婚と出産・育児を経験するため、男性は家族を支えることを優先して働き、女性は仕事を辞め家庭に入り、家事と育児に追われた。
 - …現代：結婚と出産・育児が20代後半に伸びたため、10代後半や20代前半は自らの興味や能力に見合った職種を探しながら、学校や仕事で様々な可能性を試せるようになった。
- ✓ 経済と仕事の変遷：50年前と現代
 - …産業 ⇒ 高度教育を要するサービス業へ
 - …学歴における雇用と収入格差（高卒の失業率は大卒の3倍）

● 自分に合った仕事を探す

Emerging adults は様々な職業を体験していく中で、自らのアイデンティティを確立していく。

アイデンティティに見合った仕事を探す

個人によって様々な過程を経る：気に入った仕事の経験から新たに進路転換する場合／幼い頃から自分のやりたいことが明確である場合（技術職に多い）／Emerging adults になって、夢が絶たれる場合（スポーツや芸術、芸能領域に多い）／Emerging adults になって、自分の夢が想像していたものと違うことに気づき進路転換する場合

- ✓ 今日における女性の仕事-家庭葛藤
 - …社会人、妻、母としての役割葛藤。女性の Emerging adults にとって職業選択とは、単にアイデンティティに一致するものを探すことだけでなく、社会人と母という二重のアイデンティティのバランスをとることでもある。
- ✓ 今日における男性の仕事-家庭葛藤
 - …仕事よりも、家事と育児を分担し子どもと関わることを望む（女性はあまり期待していない）。

- ✓ Emerging adults と雇用者側のギャップ
…雇用側は生産性を重視するため、Emerging adults の仕事への態度は、時に彼らをイラつかせ、生意気だ、甘えていると思わせることもある。しかし特に若い労働者は、搾取されることを避けるためにも、雇用者に平等な報酬を求めるべきでもある。

仕事に「なんとなく収まる」

…多くの emerging adults は今の仕事は自分が選択したのではなく「なんとなく収まった (I just fell into it)」と表現する。
…こうした emerging adults の多くは、現在の職に満足せず、他の仕事を探して“放浪”している。

- ✓ Quarterlife crisis と emerging adulthood の関連
…自らの道 (アイデンティティ) を見つけられずに職を転々とする不安定さと不確かさから起因している。すなわち、シンプルにアイデンティティの危機である。

Quarterlife crisis / Mid-twenties crisis

…20代で経験する精神崩壊の時期を指す。本質的な孤独感への気づきと相まって、学校や構造化された環境の外での無能感によってしばしば引き起こされる。

Robbins & Wilner (2000) 注釈より

- ✓ 米では Quarterlife crisis は珍しくないにも関わらず、こうした危機に対するプログラムや施設もなく、情報提供やガイダンスもない。一部の学者からは「自由の暴政 (tyranny of freedom)」だとの批判も出ている。
- ✓ アメリカとヨーロッパでの就職活動の違い
…アメリカ：多くの選択肢とわずかなガイダンス。
ヨーロッパ：構造化されているが進路変更できる自由は少ない。
…今後はハイブリッド・システムへ；自分が何をしたいか明確な emerging adults には直接転職できるような手立てを用意し、時間をかけて自分に合う仕事を色々試したい emerging adults には自由に職業探索させられる、構造と支援のこと。

長期的な方向性を決定する

どんな形であれ、様々な仕事を探るなかで自分がどんな仕事をしたいのか明らかになる場合もある。

- ✓ 20代前半より後半の emerging adults で、長期勤務したい仕事を見つけられたと感じている者が多い (emerging adulthood の終わり と成人期の形成を示唆する)。

- ✓ 「10年後のあなたは何をしていますか？」という質問に対して…
 - …20代前半：10年後を想像できないことで平静に過ごす。自分たちが、今は何をしたいか探している時期だと自覚し、将来についての可能性がたくさんあるように感じている。
 - …20代後半：emerging adulthoodを離れ、大人の役割の中で責任を負うようになり（特に結婚や出産、育児で）、選択肢は次第に狭くなり、将来への具体性が増す。

職業選択への影響

仕事でのアイデンティティの確立や長期勤務する仕事を決めることは基本的に単独作業であるが、他者のあり方が就職活動に影響することもある。

- ✓ 他者からの紹介による就業
 - …こうした仕事の多くがemerging adults 本人のアイデンティティに合うことは滅多にないが、どんな仕事に就けばいいのか十分に分かっていない者たちは知人から紹介される仕事を喜んで引き受ける。
- ✓ 親の職業が、子のemerging adultsの就活に与える影響
 - たまたま親の職業とこのアイデンティティが一致する場合／一時親の職業を目指すものの、途中で自分のアイデンティティと合わないことに気づき変更する場合／親がその職業で大きな成功を収めている場合には、その壁が高すぎて子どもが同じ職業を志さないこともある。

● 夢と空想と絶望

Emerging adultsの仕事に対する期待のあり方…

- ✓ 夢
 - …Emerging adulthoodは可能性に満ちた時期であるため、ストレスフルで低賃金な職場で労働していても、どこかではいつかもっと大きな、すばらしい仕事に出会えると信じている。
- ✓ 空想 (pipe dreams)
 - …emerging adultsの手の届かなさそうな夢に毎日胸をふくらませ、華々しい将来を思い描くが、そのために特になにもしていないこと。
- ✓ 絶望 (dreamless)
 - …比較的若い時点から、満足した人生の基底となるような満ち足りた仕事を見つけることを諦めていること。これは、職業選択という迷路を抜ける地図を持てるような、明確なアイデンティティを確立できなかったことによるもの。
 - …産業の衰退と科学技術の発展による雇用の縮小という今日の経済状況により、“職人”の仕事は低賃金・不安定になり、希望を持つことが困難になった。「もう上手くいかない」と自暴自棄になるemerging adultsも多い。

● 失業と不完全就業

✓ 失業

世界的に、ここ10年の若年者失業率（15-24歳）は成人（25-54歳）の2倍にあたる。

① 一般的理由：若年労働者は勤務年数が浅いため、熟年労働者よりも経験がなく知識がない。

このように若年労働者は非生産的であるため、労働市場に参入し辛い。

（例外）年間の経済成長が10%にあたる開発途上国（先進国は良くて1-3%）。

② 構造的理由：先進国では、熟年労働者の労働保障が若年者の労働市場参入を困難にさせている（雇用者側の長期労働者の解雇のし難さによる雇用へのしづり）。

✓ 雇用における学歴格差

…若年労働者の失業率は高いが、その中でも高卒は大卒よりも3倍高い。20代での長期失業はその後10年の所得を蝕むとされる（scarringと呼ばれる現象）。

✓ パート勤務と不完全就業

…大学を卒業しても、多くの emerging adults はその後数年を非正規雇用形態で勤務している上、学校で学んだことと関連がない業務をしている。よって、より一層アイデンティティに合った仕事を探すことが困難になっている。

● 結論：豊かな希望と厳しい現実

✓ 豊かな希望

…Emerging adults の求める仕事とは、相当な給料のほかに、自己表現の手段であり、興味や能力に沿ったものであり、楽しくて満足できるものであり、かつ世の中のためになるものである。

…結婚と出産・育児の時期が20代後半に延びたことにより、過去と比してより自由に emerging adulthood において職業探索を行えるようになった。（特に女性で著しい）

✓ 厳しい現実

…雇用における学歴格差の拡大：高度教育を享受した emerging adults は将来について明るい見通しを持てる一方で、享受できなかった者たちは、生涯にわたり経済的苦悶に揉まれ、期待の仕事に就くことが困難な状況である。

…アイデンティティの課題の継続：Erikson 曰く、アイデンティティは得ては失うものであるため、もし emerging adults が自らのアイデンティティに見合った仕事を見つけたとしても、それはアイデンティティ問題が解決されたことを意味しない。

それでも、自分自身をよく理解した emerging adults が、大人としての職業決定に必要な基礎を持つことが出来る。

疑問点

◇ 女性のアイデンティティについて：

女性の社会進出が拡大し、それにもなつて女性のアイデンティティの確立が複雑になったとされる。しかし Erickson のアイデンティティ理論は男性に基づくものとされており、50年前の女性でアイデンティティがどの程度、どのように確立されていたのか。すなわち、夫に生活基盤を依存するしかなかった以前の女性たちは、いかにして自分をつくりあげていったのだろうか。

◇ 就活でアイデンティティが定まらず「探索」「放浪」「もがいて」しまう Emerging Adults たちは、それ以前の進学選択の際にも揺らぎを経験したと想定される。進学先選択と就職先選択におけるゆらぎのあり方は Emerging Adults にとってどう異なるのか。

◇ 仕事になんとか収まる、ということは自然なことであるように感じた。Emerging Adulthood の根拠のない万能感や全能感から、現実的検討能力として「何にもなれない自分」を受け止めて (quarterlife crisis を乗り越えて)、なんとなく就職した仕事をなんとなく受け止めていくことで、諦めに伴ってアイデンティティが確立されていく過程もあるのでは。